

会社概要

商号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)

代表者 代表取締役社長 前川 秀和

本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号

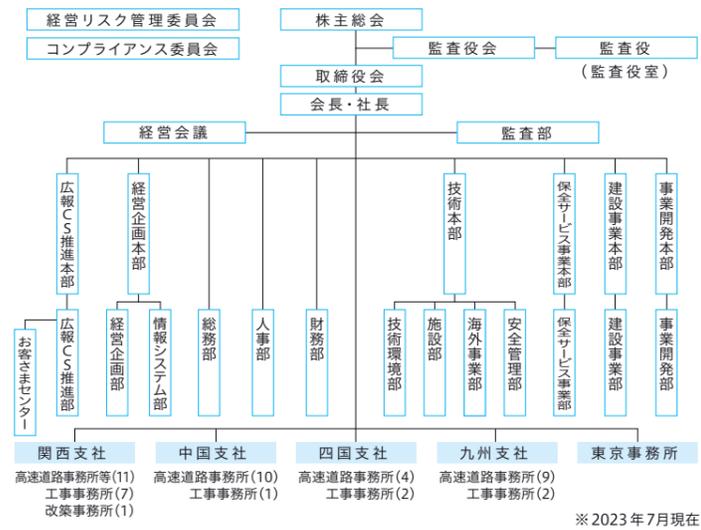
資本金 475億円

設立年月日 2005年10月1日

従業員数※ (単体) 2,789人 (連結) 16,440人

※ 2023年5月末現在

NEXCO西日本 組織図



グループ会社

連結子会社 27社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファンリティアーズ株式会社
- 保全作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務及び人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 有料道路の運営・管理
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.
- 橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・調査等事業
 - 株式会社富士技建
 - NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
 - NEXCO西日本インノベーションズ株式会社
- 維持管理システム・ITインフラ等業務
 - NEXCO西日本情報テクノロジー株式会社
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社
- 持分法適用の子会社 1社
 - SA・PAの運営・管理
 - 沖縄道路サービス株式会社
- 関連会社 6社
 - システムの開発・改良及び運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムソリューションズ
 - 研究及び技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
 - 料金収受機械等保守整備業務及び料金収入計数管理業務等
 - 高速道路ツールテクノロジー株式会社
 - 保険代理店業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
 - トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
 - 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

事業エリア(24府県)

高速道路事業

営業中道路 3,603km
IC数 IC 473カ所 うち、スマートIC 37カ所
利用台数 293万台/日(2022年度実績)
営業収入 7,296億円(2022年度実績)
建設中道路 新設区間55km
6車線化及び4車線化区間166km※

※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る

SA・PA事業

サービスエリア 100(94)カ所
パーキングエリア 213(96)カ所
売上高 1,577億円(2022年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
※()内は、第三セクターの運営を除いた
有人の営業施設の数



NEXCO西日本グループのあゆみ

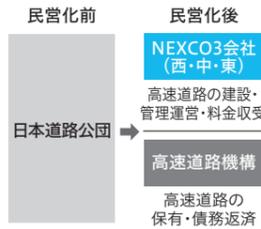
NEXCO西日本は2005年に設立されました。
 前身の日本道路公団を含めると60年を超える歴史になり、
 私たちは半世紀以上にわたって、24時間365日、我が国の大動脈として
 生活・経済活動に欠かせない重要インフラである
 高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

1956— 2004

- 1956 日本道路公団発足
- 1963 日本初の高速道路 名神高速道路 (栗東IC～尼崎IC間) 開通
- 1965 名神高速道路 全線開通
- 1991 ロゴマーク(CI)の導入
- 2001 ETCの運用開始

2005— 2010

- 2005 10月 日本道路公団の分割・民営化により西日本高速道路株式会社設立
- 2006 4月 ブランドネーム、ロゴマーク決定
- 2007 11月 阪和自動車道 全線開通
- 2008 2月 新名神高速道路 (亀山JCT～草津田上IC) 開通
- 2008 11月 ハイウェイ交通情報提供『iHighway』サービス開始
- 2010 3月 第二京阪道路 全線開通



2011— 2015

- 2013 4月 京都縦貫自動車道 (沓掛IC～大山崎JCT・IC間) 開通
- 2014 1月 高速道路リニューアルプロジェクト発表
- 7月 舞鶴若狭自動車道 全線開通
- 2015 3月 徳島自動車道 (鳴門JCT～徳島IC間) 開通
- 6月 茨木技術研修センター「I-TR(アイトレ)」開設

- 2011 3月 東日本大震災



2016— 2020

- 2016 4月 東九州自動車道 (椎田南IC～豊前IC) 開通 北九州市から宮崎市が直結
- 2018 3月 新名神高速道路 (高槻JCT・IC～神戸JCT) が全て開通 宝塚北SAオープン
- 2020 中国自動車道 (吹田JCT～神戸JCT) のリニューアル工事を開始



- 2016 4月 熊本地震



- 2018 4月 新名神高速道路有馬川橋 橋桁落下事故発生

- 2018 7月 平成30年7月豪雨 (37道路、2,299kmが 通行止め)



- 2020～ 9月 台風21号 (関西国際空港連絡橋 タンカー船衝突)



2021—

- 2022 3月 播磨自動車道 (播磨新宮IC～宍粟JCT) 開通



- 徳島南部自動車道 (徳島JCT～徳島沖洲IC) 開通



- 2020～ 新型コロナウイルス感染症の蔓延



CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)

2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成すべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)				集計範囲	関連するSDGs	関連ページ		
			管理のポイント・指標	2022年度目標	2022年度実績	2023年度目標					
 お客さま	交通安全の 取り組み	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	4.2件/億台km	4.0件/億台km	後日ウェブサイトに掲載	NEXCO西日本事業エリア の全国路線網		17ページ		
			車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令台数)	—	304台	—			14ページ		
			逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案件の件数)	—	66件	—			19ページ		
	快適な高速道路 空間の提供	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件の件数)	810件	869件	—		NEXCO西日本事業エリア の全国路線網		—	
			顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.7ポイント	3.7ポイント	後日ウェブサイトに掲載				43ページ	
			年間利用台数	975百万台	1,062百万台	—				7ページ	
SA・PAのお客さま 満足施設への変革	高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められています。	通行止め時間(営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	100時間	—	NEXCO西日本事業エリア の全国路線網			11-20ページ		
		本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	594万台・時	465万台・時	後日ウェブサイトに掲載				19ページ		
		路上工事による交通規制時間※1(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	—	121時間/km	—				13-16ページ 21-26ページ		
 社会	社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	ベビーコーナー設置箇所数	—	0カ所 (累計105カ所)		—	NEXCO西日本事業エリア		30ページ	
			キャッシュレス決済率	—	29.8%		—			—	
	災害対応力の強化	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	新規開通路線延長	—	—		—		NEXCO西日本事業エリア		21,22ページ
			4車線化完成路線延長 ※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る	3.6km	3.6km	—	23,24ページ				
	高速道路を通じた 地域活性化	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	快適走行路面率 (快適に走行できる舗装路面の車線延長)	98%	98%	後日、ウェブサイトに掲載	NEXCO西日本事業エリア				14,38ページ
			南海トラフ地震等における被害に備えた防災備蓄品の新規備蓄箇所	2カ所 累計 248カ所	0カ所 累計 246カ所	2カ所 累計 248カ所					11,12ページ
地域物産展実施エリア			—	40カ所	—	31ページ					
地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数			のべ3,536日	のべ3,617日	のべ3,683日	31,33,34ページ					
透明性の高い経営と 着実な債務の返済	国民の財産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	3カ所 (累計80カ所)	—	NEXCO西日本 NEXCO西日本グループ			30ページ		
		地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	156千件	246千件	後日、ウェブサイトに掲載				28ページ		
積極的な情報公開	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	高速道路機構の債務削減	8ページの「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。				(旧道路関係4公団)		8ページ		
		社長定例会見、記者交流会の開催 ※2022年度の目標・実績には記者交流会を含まない	12回	12回	16回		NEXCO西日本			43ページ	
		Facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式Facebook登録者数の増)	登録者数 30,000人	登録者数 29,150人	登録者数 30,000人					裏表紙	
CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ	1ページ						

※1 集計期間：2022年1月1日～12月31日(他は2022年度実績)

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連するSDGs	関連ページ
			管理のポイント・指標	2022年度目標	2022年度実績	2023年度目標	集計範囲			
 公正な取引関係 SA・PAの テナント会社との 協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 入札監視委員会(外部有識者) ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) 	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。 お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回 (各支社2回)	—	NEXCO西日本		42ページ	
			安全・安心にかかる講習等	—	年2回	—	飲食物販テナント事業者		—	
			誤給油防止訓練	—	年2回	—	元売テナント事業者等		—	
 「安全・安心、 信頼され成長する 企業グループ」を 担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修(グループ社員) 	安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続けるため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	のべ 907回	—	NEXCO西日本グループ		39,40ページ	
			資格取得支援制度の利用者数	—	371名	—	NEXCO西日本		39,40ページ	
			女性管理職者比率	—	1.5%	—	NEXCO西日本		39,40ページ	
			新規採用に占める女性の割合	30.0%	26.7%	30.0%	NEXCO西日本		39,40ページ	
脱炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) 	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	道路施設の維持管理に要する電気使用量	2020年度実績より 2.0%以上削減する	6.6%削減	2020年度実績より 3.0%以上削減する	NEXCO西日本事業エリア		35-37ページ	
			新設料金所等に太陽光発電を設置する	累計20kW	累計20kW	累計20kW	NEXCO西日本事業エリア		35-37ページ	
			次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	電気自動車用急速充電設備を新たに18口増設する	電気自動車用急速充電設備を18口整備完了	電気自動車用急速充電設備を新たに40口増設する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		35-37ページ	
			事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本		35-37ページ	
			植物系廃棄物(草刈等)の有効活用率	97%以上	98.7%	97%以上	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
循環型社会の形成		高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	建設発生土の再利用率	80%以上	95.1%	80%以上	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
			アスファルトコンクリート塊のリサイクル率	99%以上	99.9%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
			コンクリート塊のリサイクル率	99%以上	100%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
			動物侵入防止対策の設置・改良箇所	54km	55km	14km	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
自然と共生する 社会の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	遮音壁の設置(設置延長)	累計1.4km	累計1.4km	累計1.4km	NEXCO西日本事業エリア		35,36,38ページ	
			交通安全啓発活動	—	のべ93回	—	NEXCO西日本グループ		17ページ	
 「安全」「環境」 「地域貢献」の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) ● 包括協定・連携協定(各地域の地方公共団体) 	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	職場周辺や各地域での清掃活動	—	のべ1,063回 9,736人	—	NEXCO西日本グループ		38ページ	
			つなぎの森活動	—	1回	—	NEXCO西日本管内3カ所		38ページ	